

《インターンシップを受け入れました》

8月16日から17日にかけて、2018年度東北電力インターンシップ※(就業体験)の原子力コースを選択した大学院生および大学生31名が女川原子力発電所に来所されました。当日は、原子力発電のしくみや女川原子力発電所内のさまざまな業務についての講義のほか、安全対策工事の現場見学や中央制御室を模擬したシミュレーターを使っての運転操作体験などを通じ、女川原子力発電所の現状や安全性向上に向けた取り組みについて理解を深めていただきました。参加者からは「社員の皆さんの安全に対する意識の高さや地域へ貢献したいという気持ちを強く感じた」との感想をいただきました。

※当社のインターンシップは、就業体験の機会を提供するために実施するもので、採用選考活動とは一切関係ありません。



中央制御室を模擬したシミュレーター室では、訓練の見学や運転操作を体験



東北電力の仕事をより実感していただくため、社員と同じ作業服に着替えて、防潮堤かさ上げ工事の現場を見学



社員との対話では、女川原子力発電所内の業務について、たくさんの質問が寄せられた

講師として原子力発電の安全設計について説明しました。学生の皆さんがさまざまなことに興味を持ち、熱心に質問をしている姿が印象的でした。一人ひとりが原子力発電の必要性やエネルギーの未来について真剣に考えていることを知り、自分の仕事の重要性を再認識しました。今後も、より高いレベルの安全確保に向けて精一杯取り組んでまいります。

環境・燃料部 原子燃料グループ
菊池 愛斗 (岩手県出身)



《私の職場を紹介します》

私の所属する保全部タービングループは、原子炉でつくられた蒸気の力を発電機に伝える役割を持つ蒸気タービンをはじめ、タービン建屋内の機械設備の維持管理を担当しています。

また、緊急時に原子炉や使用済燃料プールを冷却するために注水を行う代替注水車等の維持管理・運用も担当しています。

8月23日、緊急時における冷却機能の確保のため、代替注水車による注水訓練を行いました。私の職場では、代替注水に必要な技術の向上および使用する資機材の準備状況などの確認を目的とした訓練を定期的実施しています。



設備からの異音の有無や計器指示値のチェック等、運転状況に異常がないかを定期的に確認



代替注水車による注水訓練を定期的実施



訓練では、常に本番を想定し「自分たちが発電所を守る」という強い使命感と責任感を持って臨んでいます。今後も安全最優先を徹底し、日頃からの設備の保守管理をはじめ、さまざまな事象を想定した訓練を行い、緊急時の対応能力の維持・向上に努めてまいります。

今回の”私” 保全部 タービングループ
佐々木 駿 (岩手県出身)



《「第26回東北電力杯ソフトボール大会」が開催されました》

9月2日、第26回東北電力杯ソフトボール大会(主催:女川町ソフトボール協会、協賛:東北電力(株)女川原子力発電所)が女川町総合運動場第二多目的運動場と女川町立女川中学校校庭グラウンドで開催されました。

当日は、時折小雨が降る曇り空の下、13チーム(約200名)が参加し、熱戦が繰り広げられました。決勝戦は「アベ住建」チームと「チームHANGOVER」チームの対戦となり、6対2で「アベ住建」チームが見事4年連続の優勝に輝きました。会場に足を運び、ご声援いただきました皆さまには、大会を大いに盛り上げていただき、誠にありがとうございました。



13チームが参加し、熱戦が繰り広げられた

上位チームの成績および個人賞は以下のとおりです。

○優勝	「アベ住建」チーム(4年連続優勝)	最優秀選手賞	平塚 大輔さん
○準優勝	「チームHANGOVER」チーム	優秀選手賞	茂木 倅子さん
○第三位	「寿会」チーム	優秀選手賞	和泉 大典さん
○第三位	「トンネルズ」チーム	優秀選手賞	加藤 雄大さん

女川原子力PRセンターからのお知らせ

《「収穫祭2018」を開催します》

10月28日(日)、女川原子力PRセンターにおいて「収穫祭2018」を開催します。

女川原子力PRセンター内の果樹園「スイートガーデン」で育った「りんご・大根・さつまいも」の収穫体験(小学生以下対象)のほか、ご家族でお楽しみいただける各種催しを実施します。皆さまお誘い合わせのうえ、ぜひ女川原子力PRセンターにお越しください。

「収穫祭2018」の詳細については、下記URLよりホームページをご覧ください。

ホームページ <http://syukaku-onagawa.com>

お問い合わせ先 収穫祭事務局 電話番号:0120-554-566
平日10:00~17:00(土日祝休み)

《「第17回東北電力図画コンクール」の一般投票を行います》

8月31日までに募集した「第17回東北電力図画コンクール」に、たくさんの作品をご応募いただきありがとうございました。

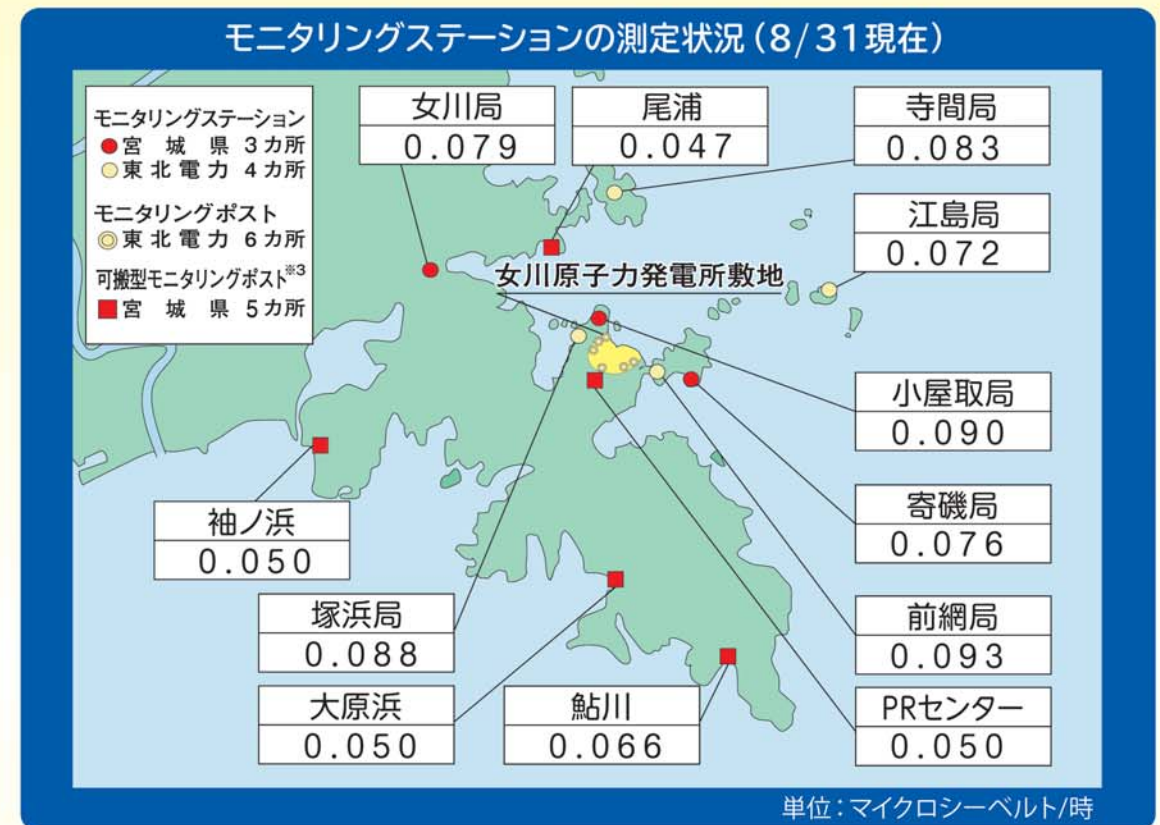
9月29日から10月31日までの期間、一次審査を通過した200作品を女川原子力PRセンターに展示し、来館者の皆さまによる一般投票を行います。

ぜひご来館いただき、お気に入りの作品に投票してください。

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.054マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



(参考)モニタリングポストの最小値と最大値

〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	
2011年 3月11日	0.027~0.064
〈地震発生後最大値〉	
2011年 3月13日	1.8~21※4
〈地震発生以降毎年度(4/1)の値と至近値〉	
2012年 4月 1日	0.063~0.098
2013年 4月 1日	0.055~0.076
2014年 4月 1日	0.046~0.065
2015年 4月 1日	0.043~0.077
2016年 4月 1日	0.041~0.061
2017年 4月 1日	0.038~0.059
2018年 4月 1日	0.037~0.048
2018年 8月 1日	0.037~0.049
2018年 8月 31日	0.036~0.054

単位:マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日(2011年(平成23年)3月13日)の値、毎年度(4月1日)の値、至近の値を掲載しています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。